

保健体育科

1 保健体育科が担う生徒の「学力」と「基礎・基本」

(1) 保健体育科の取組

本校保健体育科は、学校教育目標を受け、教科の目標を『各種の運動を行わせることにより運動に親しむ習慣を育て、運動技能を高めながら健康安全に関する知識の習得と、健康な生活を営むことに必要な態度や能力を育成します』と設定し、保健体育科の学習場面で、生徒一人ひとりに「二つのじりつ（自律・自立）している姿」が現れるよう、学習のいろいろな場面で指導・評価のしかたを工夫・改善し、教師の授業力向上に努めている。また、課題発見・解決的な学習活動を通して生徒自らが、自分の成長課題の実現を図ることができるように単元の学習の流れに沿って考えている。

(2) 保健体育科が担う生徒の「学力」と「学力向上」

保健体育科の横浜市教育課程編成の指針には、「子ども自らが進んで運動に親しみ、運動する意欲を高め、体力を向上させたり、適切な健康管理や改善をしたりすることを通して、人間の生活の基盤となる生涯にわたる健康なライフスタイルを確立していく。したがって、「生き方の教育」を推進する保健体育科においては、積極的に運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力を培いながら、活力ある生き方を切り拓いていく子どもの学びの姿をとらえ、その実現を支えていくことが大切である」とある。

このことから、本校保健体育科の担う「学力」は、次のような視点でとらえていくことが大切であると考え。また、これらの力が保健体育の学習場面でより多く、強く一人ひとりの生徒の姿に現れた時を「学力向上」ととらえる。

- ・ 相互に学び合って学習を進める力
- ・ 自分を理解し、自分にあった運動や方法を選択する力
- ・ 自分に適した課題を設定し、その解決に向けて進んで取り組む力
- ・ 健康な生活のしかたを理解し実践する力

(3) 保健体育科の「基礎・基本」

「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現や、健康の保持増進を切り拓くための実践力を身につけていくこと」を「生き方の基礎・基本」、「仲間との豊かなかかわり合いや相互の学び合いを通して、課題を発見し解決する力を育成できるようにすること」を「学び方の基礎・基本」、「健康で安全な生活をしていくための知識と、その運動の特性に応じた技能、及び体力の向上が図れるようにすること」を「知識・技能の基礎・基本」とする。

2 取組の経過（個に応じた指導で配慮したこと）

- (1) 「生き方の基礎・基本」の定着のために、本校では、運動場面でルールの確認と徹底や運動の行い方を自分やチームで考えることなどを取り入れている。その上で、自らを評価したり仲間を評価することを通して、運動の楽しさを味わい、現在と未来の生活に積極的に取り入れることができるようにしている。また、それが仲間との豊かなかわり合いをうみだし、さらには、公正な態度や責任感の育成につながると考えている。
- (2) 「学び方の基礎・基本」の定着のために、相互評価・自己評価・学び合いを通して、自分の適性に合った課題設定と運動の実践を行えるよう支援している。さらに、その取り組みが適切であったかを判断する能力を養うことにもつなげていけるよう支援している。また、種目選択を行い、生徒自らが課題を持って学習していけるように支援している。
- (3) 「知識・技能の基礎・基本」の定着のために、上記(1)(2)に取り組みながら、各種の運動を行うのに必要な技能を身につけ、ルールやマナーを理解させるように工夫している。また、日常的に健康・安全に留意して活動できるように支援している。

これら(1)(2)(3)は、密接なかわりをもたせて取り組むことが大切である。具体的な取組の一つとして、授業での学習内容、自己評価や相互評価などを一つにまとめた「学習カード」に毎時間取り組ませていることがあげられる。このように、仲間や教師からの適切なアドバイスを活用しながら、生徒一人ひとりの学力向上に努めている。

3 指導・評価にあたっての考え方・方針

保健体育科においては、生徒一人ひとりが自分の状況を的確に判断しながら、ねらいをもってそれを実現する学習が展開される。そのため、練習方法や行い方を教師側から伝えていく教師主導型の授業ではなく、生徒自ら主体的に授業に取り組めるような授業展開をしていく必要がある。これらを実現していくには、自分にあった学習の進め方がわかるよう、「学び方の基礎・基本」、「知識・技能の基礎・基本」についての解説をしたうえで、具体的な運動についての適切な支援をすることが大切である。また、評価の基本的な考え方としては、単に技能が優れているとか記録がよいというのではなく、生徒一人ひとりの能力やよい面を最大限に伸ばしていくことを中心におき、自ら設定した課題を解決しようとする生徒の姿や取組の様子について評価をしている。

4 指導・評価にあたっての具体的工夫

基礎・基本を身につけるような授業展開においては、お互いに学び、教え合うことを重視し、一斉指導・グループ指導・個別指導等、集団や個々に応じた指導を心がけてい

る。球技や器械運動、陸上競技といった単元については、選択制授業を実施し、生徒が自ら課題をもってそれを解決していく学習を展開している。そのうえで、学び方を身につけていくために、オリエンテーションの時間をとり、選択制授業の趣旨、ねらいを的確に生徒に伝え、理解できるように心がけている。指導にあたっては、個人やチームで課題を設定したうえで実践および反省を行い、課題・目標の見直しを支援している。

また、評価においては、教師の観察・実技テストだけでなく、生徒が自分の状況を確認したり、考えをまとめ、組み立てていけるよう、相互評価・自己評価を取り入れた学習カードを活用している。単にできたとかできなかったではなく、どのようにできるようになったのかについて評価していくことが生徒一人ひとりの意欲につながると考える。

5 生徒の変容

自分と仲間をお互いに評価できるようにと自己評価・相互評価を取り入れたことにより、今までは自分さえできればという考えからお互いに教え、学び合いながら積極的に学習に取り組めるようになった。学習カードに本時の反省および次時の目標を記入することも、初めは抵抗があったのか、考えを深くまとめることができなかったが、毎時間記入することから次第に思考力や知識力が養われてきた。このことから、相互に学び合って学習を進める力は少しずつ向上してきていると考えられる。

また、授業展開では、選択制を実施したことから、『できないことがあればまずできるところから取り組んでみよう』と自ら何からできるかを検討し、自分に適した解決の仕方（方法や手順）で課題の解決していくという姿勢が見られようになった。また、自分を理解し、自分にあった運動や方法を選択する力や自分に適した課題を設定し、その解決に向けて進んで取り組む力も以前に比べ、向上が見られてきている。

6 今後の課題

(1) 平成14年度までの区の研究成果として学習カードを教材として取り入れ、どのように個に関わっていくことが大切であるかが認識できた。本研究でも学習カードを活用したわけだが、今でも「文章作りが苦手」「記入自体が不得意」等でカードの記入だけでは個々の生徒の状況を把握することが困難である。今後も様々な理由でそのような生徒が増えていくことが予測される中で、記入状況のみにとらわれることなく、より多くの生徒一人ひとりとの「かわり」の時間を取っていくことが必要だと思われる。また、指導場面での活動にあてる時間と知識理解を含めた考える時間の配分、個別指導中の教師側の安全確認と生徒への徹底、個々の課題の明確化等について、今後もさらに工夫・改善していくことが必要だと考えている。

(2) 生徒の学力を適切に評価し、教師・生徒ともに、新たな課題や目標を明らかにするために各単元における「A基準」「B基準」の明確化を今後も進めていくことが必要

だと考えている。横浜市の教育課程運営・改善研究委員会から示される資料等を参考にしながら、今後も適正化と明確化を図っていきたいと考えている。

- (3) 本校生徒については、着実に互いに教え合い、学び合う学習展開ができつつある。しかし、自己評価と他からの評価にずれがあったり、さらに教師の評価とも大きくずれが生じている場合もままある。より適切な自己評価と相互評価ができるような工夫をしていかなければならない。一つには、評価規準の明確化と示範を含めた映像としての個々への理解を、よりすすめていかなければならないと考えている。ただ、多岐にわたる技能を完全に網羅するのは容易ではないので、より効果的に示していける方法を研究していかなければならないと感じている。